

【意見提出用紙】

宛 先： 環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室内
有明海・八代海総合調査評価委員会事務局あて

F A X 03-3501-2717

氏 名： 吉田 訓啓
職 業： 漁船漁業・ワカメ・コンブ等藻類養殖業
住 所： 〒 長崎県 島原市 <以下省略>
電話番号： <省略>
F A X 番号： <省略>

意 見： 4 章 問題点とその原因・要因の考察
5. 環境と生物生産の中長期的な変化（有明海）
5 章 再生への取り組み など全般について

（4 章意見）

私は漁業に従事して 23 年になります。筑後大堰が出来た時は私達の漁場（有明海中央部）では影響は感じられませんでした。魚も極端に減少する事も有りませんでした。

熊本新港も同じく魚の減少や潮流の変化も感じる事は有りませんでした。

しかし、諫早湾干拓事業では極端な魚や車エビ等の減少が起きました。

ですから、最大の影響は諫早湾干拓事業だと思えます。

干拓事業で閉め切る前は車エビ漁（源式網と言う流し網）を夏場に行いますが、

島原市、有明町地先の漁場で網入れから網上げまでの距離が GPS で 1, 8 km ~ 2 km 流れていたのが、閉め切り後は 1, 6 km ほどしか流れなくなり、湾口に向かう流れる潮が無くなりました。

5. 環境と生物生産の中長期的な変化（有明海）

干拓工事が始まる前に一度ジャンボタニシの駆除を諫早湾周辺の農業者が行った事が有りその年は有明町地先から諫早湾湾口に近づくにしたがい車エビが採れなくなる事が有りました。タニシ駆除の翌年は例年通りの漁獲に戻りました。干拓工事が始まり数年後には以前経験した様に湾口部に近い漁場で車エビが採れなくなりました。この事から諫早湾の車エビは育つ事が出来ない海になったと感じました。

堤防が閉め切られた年は湾口部には車エビは居なくなり翌年からは有明町地先も殆ど車エビは居なくなりました。現在では島原沖の一部しか車エビ漁の漁場は有りません。

干拓工事が始まる前は有明海全体に湧いて出ているかの様に居た車エビが夢の様に感じられます。シタビラメやヒラメも同様に激減しています。

5 章 再生への取り組み など全般について

私達島原漁民は雲仙噴火災害を経験しています。その時は土石流や火山灰の影響で海底の底生生物の減少が有りましたが翌年から底生生物は以前の様に増えてきました。陸上と違い海の再生速度はとても早いと思います。ですから委員会皆様に開門調査の必要性を是非提言して欲しいのです。短期開門調査でさえ翌年に湾口部で蛸やガザミが採れたのです。現在では何も採れないばかりか海底にヘドロが堆積した区域が広がりつつあります。

開門調査も短期の要領で徐々に流量を上げて被害がでない様にする方法は有ると思います。現在のままでは調整池内の淡水赤潮やアオコなど負荷要因の排水が多量に有明海に半永久的に流れ込む事に成ります。短期開門調査ですら 10 日程度で調整池と外の海と変わらない水質になる事を考えれば、開門して水質や潮流の回復させる調査を是非国に提言していただきたいと切望します。